

医療用 iPS 細胞ストック研究にご協力いただいた皆様へ 提供された細胞を用いた研究実施に関するお知らせ

令和 5 年 6 月 30 日作成 v2

株式会社 VC Cell Therapy および株式会社ビジョンケアにおいて、下記の研究を実施するにあたり、京都大学 iPS 細胞研究財団（以下、CiRA_F）を通じて入手した医療用 iPS 細胞を使わせていただきます。これによるドナーの皆様への新たな負担は一切ありません。

医療用 iPS 細胞ストックがこの研究に利用されることについて、研究の計画や内容などについて詳しくお知りになりたい場合や、その他ご質問がある場合には、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

●研究の目的

CiRA_F にてすでに作製された iPS 細胞をもとに、株式会社 VC Cell Therapy および株式会社ビジョンケアにおいて、iPS 細胞およびゲノム編集技術により作製する改変した iPS 細胞を用いて、網膜組織への分化や iPS 細胞から分化細胞に至るすべての細胞の遺伝子解析など、よりよい治療に結びつく製品開発のための研究を行います。

ゲノム編集技術は研究で一般的に用いられる手法で、この研究では特定の遺伝子を改変して拒絶反応を抑えたり、より治療効果の高い細胞を作るために用います。作られた細胞は安全性と効果を詳しく検討した後に治療に使われる可能性があります。

●個人情報の取り扱いと倫理審査

あなたを直接特定できる情報（お名前やカルテ番号など）などは、株式会社 VC Cell Therapy および株式会社ビジョンケアでは保有をしておりません。この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、あなたのプライバシーは守られます。また、上記の研究の目的以外のゲノム編集は行いません。

なお、この研究は、国の定めた指針に従い、神戸市立神戸アイセンター病院の研究倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。

●iPS 細胞研究財団から提供される試料・情報の項目

〔試料〕 iPS 細胞ストック

〔情報〕 ドナーの HLA 情報、感染症検査結果、性別、年代、血液型、

iPS 細胞の HLA 情報、核型検査結果、遺伝子解析結果

【研究課題名】

「網膜疾患に対する多能性幹細胞由来網膜細胞移植による治療法確立に関する研究開発」

：株式会社 VC Cell Therapy、株式会社ビジョンケアおよび公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団

※上記の研究目的のもと、倫理審査の手続きを経て新たな課題を始める場合は、ホームページでお知らせいたします

<https://www.vcct.jp/>

<https://www.vision-care.jp/>

<https://www.cira-foundation.or.jp>

【研究期間】

2021年9月10日 ～ 2028年3月31日まで

●この研究によるあなたの利益、不利益について

将来の患者さんへの治療法開発のために行う研究ですので、あなたへの直接的な利益は想定していません。あなたをご提供下さった細胞は、感謝の気持ちを忘れずに使用させていただきます。すでに京都大学で個人情報などに対する適切な処理を行っている iPS 細胞を使用し、本研究によって細胞から得られるデータは適切に管理を行いますので個人情報の漏洩などの不利益もありません。

●研究代表者

堀清次（株式会社 VC Cell Therapy 取締役） 住所：神戸市中央区港島南町2丁目1-8

●共同研究機関・研究責任者

高橋政代（株式会社ビジョンケア 代表取締役）

●共同研究機関・研究責任者

山中伸弥（公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団 理事長）

●問い合わせ先・連絡窓口：株式会社 VC Cell Therapy

住所：神戸市中央区港島南町2丁目1-8

連絡先：ct-kenkyu01@vcct.jp

※匿名化の関係もございますので、直接ご連絡いただくことが難しい場合は、医療用 iPS 細胞ストックのコーディネーター様を通してご連絡いただけますと幸いです。まずは、下記へご連絡いただき、後ほど同意撤回文書を CiRA_F まで提出ください。

〔お電話の場合〕 iPS ストックドナー専用ダイヤル 075-366-7181

〔メールの場合〕 participant@cira-foundation.or.jp

〔受付時間〕 平日 10:00～17:00

参考

・ゲノムとは

生物の生物の形や性質(形質)を決めるために必要なすべての遺伝情報のことを言います。

・ゲノム編集とは

細胞の中にある遺伝子のうち特定部分の遺伝子を欠損させたり、別の遺伝子に入れ換えたりすることです。様々な方法でゲノム編集を行うことができますが、最近ではゲノム編集によって目的の機能を細胞に加えたり、必要のない機能を除去することが比較的簡単にできるようになっています。ゲノム編集を加えても細胞は正常に働き、本研究の場合は治療の副作用を抑えたり、治療をより効果的に患者さんに提供することに役立ちます。